



統計に見る歴史—明治初期の京都府

今年は大正9年（1920年）に国勢調査が開始されてちょうど100年に当たりますが、それ以前から統計を取る努力は行われてきました。

今回は、府立京都学・歴史館に残る統計資料から、明治5年の京都府を見てみます（なお、当時丹後国は豊岡県の一部で、京都府に含みません）。

明治5年の京都府の総人口は564,246人。時代を反映して華族、士族、平民等に分け、さらに戸主と家族に分けた形で調査されています。特徴的なのは、神社仏閣に関わる人について細かく調査されていることで、旧神官が817人（家族を含めると3,350人）、僧が2,830人（同4,361人）、僧弟子1,206人、尼341人、尼弟子268人の合計5,462人（同9,526人）でした。総人口に対する割合は約1%（家族を含めると約1.7%）、100人に1人程度は社寺関係者ということになります。（表1）

耕地面積や車両数、家畜数等他にも数値が残っていますが、ここでは船舶に関する統計を見てみましょう。

当時の京都府内における船舶の総数は2,172艘。そのうち約82.6%に当たる1,793艘が10石積み以下で、小回りの利く小型船が大半を占めていたようです。（表2）

地域別の船舶の分布状況を見ると、京都市中（当時の上下両区と伏見市中）の19.9%と、山城国の76.2%で合計96.1%を占めています。現在では想像もつきませんが、当時は伏見港を中心とする淀川水系での水上交通が非常に活発であったことがうかがわれます。（図1）

なお、1艘だけ蒸気船が存在したようです（表2）。和船の中を行く蒸気船に、明治の府民は新しい時代の到来を見たのかもしれない。

表1 明治5年3月の京都府内人口

（単位：人）

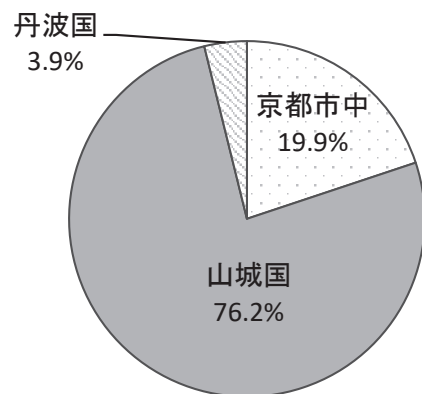
	華族	士族	卒	旧神官	僧	僧弟子	尼	尼弟子	平民	総計
戸主	97	2,598	2,281	817	2,830	1,206	341	268	130,753	141,191
家族	563	9,335	6,768	2,533	1,531	-	-	-	402,325	423,055
合計	660	11,933	9,049	3,350	4,361	1,206	341	268	533,078	564,246

（出典：京都府管内戸口便覧）

表2 積載量別地域別船舶数（単位：艘）

	京都府内			
	京都市中	山城国	丹波国	
60～40石積	19	10	9	-
30～20石積	271	26	199	46
15～12石積	88	7	75	6
10石積以下	1,793	388	1373	32
蒸気船	1	1	-	-
合計	2,172	432	1,656	84

（出典：京都府管内戸口便覧）



（出典：京都府管内戸口便覧）

図1 船舶数の地域別割合